

防災プロジェクトでは危険箇所を確認しながら巡回する「防災まち歩き」を実施しました＝今年10月、野々市市内



革新的アイデアで 地域に貢献

足で稼いだ情報を落とし込み、マップ作りに取り組む防災プロジェクトのメンバー＝野々市市の金沢工大アントレプレナーズラボ

金沢工業大学アントレプレナーズラボ

「知の拠点」に集う

大学生たち

政かで色分けし、優先度合いを併記するといった工夫が導入されています。

まとめたのは紙のマップだけではありません。木造家屋が密着しており、延焼の可能性が高いことから、コンピューターにデータを入力して火災時の被害予測も行いました。現在は震度別に分けた震災時の被害予測に取り組んでいます。このシステムが完成すれば、震災発生時にコンピューター上の操作だけで被害がある程度予測で

き、迅速な復旧作業が可能になるなど、防災に大きく寄与することが期待できます。

SNS使ったシステムも

このプロジェクトは、学生と住民、地元自治体が一体となった防災体制を作り上げることを目的に、昨年5月に立ち上がりました。当初はアイデアの提案が中心でしたが、今年度からEラボ内に活動拠点を設けたことで、具体的な対策を講じることができるようになりました。

マップづくりはその一例で、このほか近隣住民を招いたブロック塀の倒壊実験や、危険箇所を確認しながら巡回する「防災まち歩き」を実施。地元町会幹部を招いた勉強会を毎月1回開いたり、小学校で出張講座を開くなど、意識高揚に努めています。

災害に関する情報をSNS（ソーシャル・ネットワークキング・サービス）で住民全体が共有するシステム構築に向けた研究も10月に

今年3月、金沢工業大学のキャンパス内に「アントレプレナーズラボ」が誕生しました。革新的なアイデアを生み出す人材を養成する拠点であり、地元自治体や住民、県内外の企業などと連携したさまざまなプロジェクトが進行しています。課題を見つけ、その解決に取り組む学生の姿を追いました。

地域と共に防災に取り組む マップに危険情報を集約

▼防災プロジェクトチーム

10月下旬の深夜、金沢工大12号館「アントレプレナーズラボ」（以下Eラボ）の一室で、学生らが写真と並べた地図を囲み、意見を交わしていました。

「ふたがない側溝が意外と多い。避難するとき、足を取られたら危ないよ」

「震災で2階に設置されたエアコンの室外機が落ち、けがをした人が大勢いたみたい。そんな家もチェックしたほうがいいんじゃないかな」

真剣な表情で熱く語る彼ら

は金沢工大地域防災プロジェクトチーム「S.O.R.A.」のメンバーです。建築系の学生を中心としたメンバー30人は大学が立地する野々市市扇が丘地区をくまなく歩き、1軒1軒の家屋の構造や危険箇所などを調査。持ち寄った情報や写真をまとめた防災マップを作成し、安全な避難ルートの策定を進めています。

「実際に地域の人に役立ててもらわなくては意味をなさない。分かりやすく、なおかつ多くの情報が得られるような地図づくりを心掛けています」

リーダーの古川和希さん（19）＝建築学科2年、福井県大野市出身＝はこう話します。改善すべき箇所は、管理しているのが個人か行

スタートしました。

計画ではタブレット端末の活用を想定しており、住民が火災や事故などに出くわした際にはカメラ機能を使って現場を撮影し、災害本部や警察、医療機関などに送信。被災した場合は被害状況を発信し、早期の救助や安否確認に役立てます。

開発に携わる塩崎真里那さん（19）＝建築デザイン学科2年、愛媛県伊方町出身＝は「まず試作品を用意し、地域の人に実際に使ってもらうことから始めたい。使用した感想を集め、改良しながら満足度の高いシステムを作りたい」と展望を語ります。

地域交流で得た「気づき」

プロジェクトは学生主体で運営しており、参加は自由です。経営

顧客管理システムを企業に提案 サッカーチームの運営に一役

▼クラウドサービス開発プロジェクト

「アントレプレナー」とは起業家を意味します。その名の通り、新事業を創出するために必要な発想

情報学科や応用バイオ学科など建築系以外の学生もおり、それぞれ専門分野の知識を生かして地域の防災力向上に取り組んでいます。柿畑祐二さん（18）＝建築学科1年＝は駿河湾に面した静岡県牧之原市出身です。巨大地震を想定した避難訓練が定期的に実施されるなど、災害に対する意識が高い地域であり、柿畑さんも建築防災を学びたいと金沢工大に進学しました。

柿畑さんは地域の人と交流するなかで気付いたことがあるといいます。「つたない説明でも、一生懸命話せば、みんな耳を傾けてくれる。授業で学んだ知識が社会の役に立つと分かり、勉強する意欲が湧きました」。柿畑さんはそういうと、はにかんだ笑顔を浮かべました。

力や独立心を養い、「企業家精神」を高めることが、ラボを設立した目的の1つ。実際に県内外の企業



今年3月に誕生した
アントレプレナーズラボ

と連携し、新たなビジネスチャン
スを見いだそうとする学生もいま
す。

10月22日、Eラボ1階のラウン
ジは熱気に包まれていました。学
生が開発、普及に取り組みクラウ
ドサービスの説明会が開かれてお
り、導入を検討している地元企業
関係者ら120人がメモを取りな
がら解説に聞き入っていたのです。

説明役を務めたのは金沢工大ク
ラウドサービス開発プロジェクト
の井端悠貴さん(20)。「メディア情
報学科3年、高岡市出身」です。
「父より年上の人もおり緊張した
が、何とか魅力は伝わったと思っ
た。今後は個別にシステムを売り込み、
契約に結びつけたい」。井端さん
は手応えをにじませました。

イベント名は「KIT(金沢工
大)ハッカソン」。プログラミン
グを意味する「ハッキング」と「マ
ラ



クラウドサービス開発プロジェクトの説明会に多くの地元企業関係者が参加しました=今年10月、アントレプレナーズラボ

クラウドサービスとは、これま
でコンピューター1台ずつのハー
ドディスクにインストールして利
用していたソフトウェアやデー
タなどを、ネットワークを通じて必
要に応じて提供するサービスです。
ソフトの購入費などを削減でき、
情報を共有することで業務の効率
化を図ることができるとして注目
を集めています。

金沢工大クラウドサービス開発
プロジェクトでは、米情報通信業
大手のセールスフォース・ドット
コムが手掛けた顧客管理システ
ムを、より使いやすい形に改良して
県内企業に提案しています。

ファンやスポンサーを管理

すでにシステム利用の契約を結
んだ企業や団体もあります。

サッカーチームのツエーゲン金
沢はこれまで表計算ソフトなどで
情報を管理していましたが、J2
昇格によるスポンサーや後援会員
の増加を見込んで、新たなシステ
ムの導入を検討していました。今
年8月、学生の提案を受け、安全
性や作業の利便さを考慮し、クラ
ウドサービスの採用に踏み切りま
した。

このシステムを取り入れるメリ
ソンの組み合わせた造語であり、
その名の通り、参加者は早朝から
深夜までキーボードを打ち続け、
ソフト開発に取り組
みます。

参加者は学生や教
員、社会人ら30人
です。県内外の企業5
社が提供したシステ
ムや端末を活用し、
11チームに分かれ
今回のテーマである
「地方の人口減少対
策」について、IT
の切り口から対処法
を模索しました。

プレゼンの 拍手に感動

ハッカソンに参加
した情報工学科3年
の小林慶亮さん(20)
。「長野市出身」が作
ったのは、「限界集
落の住人が集団で街
中に移住する際、候
補地を的確に案内す
るソフト」というユ
ニークなものです。
不動産会社で使わ
れている情報検索シ

ットは少なくありません。SNS
機能を活用し、ボランティアや選
手、スタッフ間のコミュニケーション
が図れるほか、スポンサーや
来場者のデータを精査することで、
新たな顧客開拓の手がかりを得る
ことができます。

ツエーゲン金沢の西川圭史GM
は「J2では現在の運営費をはる
かに上回る資金が必要になる。地
域密着型のチームとして、地元大
学の協力を得られることは大変あ
りがたい」と話します。

「もてなし力」を向上

プロジェクトでは現在、金沢観
光ボランティアガイド「まいどさ
ん」が顧客管理に用いるシステム
の提案を検討しています。

寝る間も惜しんでプログラム 独創的なアイデアに企業も一目

▼KITハッカソン

9月20-22日の3日間、Eラボ
で一風変わったプログラミング大
会が開催されました。

与えられたテーマに対応したソ
フトウェアを開発し、出来栄を

システムと、コンビニエンスストア
などに設置されている情報端末を
組み合わせ、タッチパネルを操作
して空き家が密集している地域を
表示する仕組みです。

小林さんは「授業では利用者の
目線でプログラミングするケース
はほとんどない。使い勝手を考慮
しながらソフトを作るのは難しか
ったけど、プレゼンで拍手をもら
ったときは、何とも言えない感動
があった」と充実感を口にしまし
た。

情報工学科3年の坂井三四郎さ
ん(23)。「北海道帯広市出身」は3
日間、若干の仮眠を挟みながらパ
ソコンに向かい続けました。

「おにぎりをほおばりながらプ
ログラミングしたのは初めて。で
も周りを見ると、社会人チームの
人も同じようにおにぎりを食べな
がら作業しており、負けられない
と奮起した」(坂井さん)

企画を主導した情報工学科の中
沢実教授は「学生のプログラム技
術を鍛え、産学共同研究の端緒を
探るのが狙いだった。正直、レベ
ルはそこまで期待していなかった
が、ほとんどのソフトが正常に作
動して、学生の踏ん張りに驚いた」
と話します。

ガイドを利用した人の年齢や性
別、行き先、感想といった情報を
収集、分析することで、金沢の観
光地に対する客層別の好みや評価
などが分かります。徳島県の観光
ボランティアガイドをはじめ、同
様のサービスを利用している例が
全国でいくつもあり、「もてなし
力」の向上効果の高さが知られて
います。

実は昨年も提案したのですが、
「操作が難しく使ってこなせない」
と断られた経緯があります。メン
バーの羽佐田佑太さん(19)。「情報
工学科2年、愛知県岡崎市出身」
は「まいどさん」は高齢の人も多
い。操作を簡略化する工夫を取り
入れ、利便性を訴えたい」と意気
込みます。

競うイベントですが、単なる開発
コンテストと違うのは、決められ
た時間内にアイデアをまとめてソ
フトを作り上げ、プレゼンまでを
こなす必要がある点です。



アントレプレナーズラボで開かれたハッカソンで、参加者は
3日間でソフトをプログラミングしました=今年9月